

2020年度 焼津福祉文化共創研究会活動計画

活動テーマ：港地域のご近所福祉を切り拓く　－協働による地域課題解決を探る－

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第14・23自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講。

この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民（14名）が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、2019年4月に「志縁団体」として、ここに「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生した。

市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の3年間の取り組みの総括から、次の「10の地域課題」を浮き彫りにした。

- (1)語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態のしくみづくり）
- (2)「地縁組織」と「志縁組織」の融合による地域づくりの取組み
- (3)「専門性」と「市民性」の融合
（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ）
- (4)当事者組織化の支援
- (5)具体的な地域の生活支援策の把握
- (6)管内のささえあいの仕組みづくり
- (7)総合的地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
- (8)地域を「見える化」する広報啓発
- (9)制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10)ご近所福祉の復活

こうした、課題改善・解決に向けて、市民有志で結成した本会の初年度の活動テーマを「居場所」として、約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内において、今日まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ領域（既存の各種団体・グループ）を、尊い「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」と「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」のご配慮により会員自ら把握する活動により取り組むことが出来た。

今年度は、取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、地域で顔の見える“近助”的関係づくりができる「協働による地域づくり」として働きかけ、本会の活動基調に基づき、活動テーマに取り組む。

1. 活動の着眼項目

- (1)世代を超えて〔地域課題〕をもとに「地域総合型学習」の場づくりに心掛ける
- (2)地域の話題を持ち寄り、「学習化」し、地域社会に課題提起できるように心掛ける
- (3)「地域課題の福祉化」に努め、専門性と市民性の融合を基に、課題解決改善に心掛ける
- (4)「近助」の意義を深め合う議論に心掛ける
- (5)地域のささえあいの仕組みづくりについて、関係機関・団体との「協働」の意義を深め合うとともに、実践活動のプロセス重視を心掛ける

◇努力点として（2020.1.11議論要点）

- ①活動財源確保
- ②アドバイス・コーディネート資質の向上
- ③対等な議論（地縁と志縁、会員を広める、公開型議論）
- ④世代を超えた地域学習の提供
- ⑤継続的実践活動の展開

2. 役員会の開催

- (1) 実務型役員会構成を基に、[代表] [副代表] [事務局長・次長] 等が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- (2) 定例研究会開催前に、「活動計画」に基づく運営について、協議の場を持つ。「子どもと福祉文化」を主要活動テーマに、様々な地域実践活動から「地方発福祉文化の創造」を研究協議する。

3. 定例研究会の開催

- (1) 毎月第2土曜日、19:00～21:00を原則定例開催日とする。(別添活動計画表参照)
- (2) 各種事業関連の研究会の開催は、定例研究会において、その趣旨を明確にして取り組む。

4. 事業関連部会設置と開催

- (1) 本会活動を円滑に展開するために、事業別部会を設置して運営することとする。
- (2) 初年度の取り組みから、今後に活かす部会として「調査研究部会」「広報部会」「研修部会」を必要に応じて、参加型で取り組むこととする。
- (3) 具体的な取組みについては、参加型会員をもって協議をして取り組む。

5. 主な活動の取り組み

(1) 調査研究事業

- ① 「地域ぐるみの居場所」検証事業（継続助成事業）
 - * 2019年度実施の「検証事業」の継続的取り組みとして、55の団体・グループをさらに掘り下げ、項目白紙欄の補充等を含めて、管内における「地域ぐるみの居場所」の把握に取り組む。
 - * 「紹介集」の更なる充実と共に、管内の「居場所の意義」を推進する努力をする。

- ② 「近助」に関する意識と実態調査事業（新規助成事業申請事業）

- * 地域の実情把握による課題解決に向けた取組みを具体化していく目的で、本会の活動テーマ「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2－協働による地域課題解決を探る－」を具体化する「近助」に関する住民の意識と実態を把握し、今後の地域づくりに活かす。
「静岡福祉文化を考える会」との協働により、県域と管内との「地域性」の比較ができる取り組みを考える。

(2) 研修事業

- ① 公開型研修会として「地域ぐるみの居場所検証報告会」の開催（継続助成事業）

- * 2019年度に取り組んだ「地域ぐるみの居場所検証事業」について、本事業に協力いただいた団体・グループ関係者、地区民生委員児童委員協議会、港地域づくり推進会、各自治会・町内会、一般市民を対象に、公開型研修会として開催する
- * 各助成事業支援団体（県コミ推協・焼津市社協）、県及び市行政関係者の出席を要請する
- * 本会会員の具体的な役割分担をもって実現につなげる
(進行・プログラム参加・運営演出・資料作成・広報啓発)
- * 前年度から準備に取り掛かり、5月(5/31)の開催（コロナ禍により延期）
- * プログラムは、概ね2・5時間とし、
00～10「開会」「アイスブレーク」

| | |
|-----------------------------------------|------|
| 10～ 30 「事業経過報告」 | 20 分 |
| 30～ 55 「基調報告 —検証事業から見えたものは何か—」 | 25 分 |
| 55～ 65 休憩 | 10 分 |
| 65～ 95 「団体・グループ紹介」 協力いただいたグループから 2 団体発表 | 30 分 |
| 95～150 「円卓トーク」 | 55 分 |

②地域をつなぐ協働研修会

* 管内福祉施設連絡会との「地域支援」「生活支援」に関する協働研修会の開催

③現場実践研修会

* 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を学び合う機会を持つ。
* 地域コミュニティ組織または、福祉事業所・施設等における「近助」のあり方を議論しながら、地域ぐるみのささえあいと地域参加を議論し合う

④調査研究考察報告研修会

* 調査研究事業として取り組んだ結果を報告し、啓発研修の機会とする

(3) 広報事業

- ① 「焼津福祉文化共創研究会通信」の発行
- ② 活動啓発事業

(4) 協働事業

- ① 「管内福祉施設連絡会」との協働事業
- ② 「静岡福祉文化を考える会」との協働事業
- ③ 「焼津市V連」との協働事業
- ④ 管内各種団体・グループとの協働事業

6. 関係・団体との連携

- (1) 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会への情報提供・連携
- (2) 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、「静岡福祉文化を考える会」及び「日本福祉文化学会」との情報の共有と活動の協働
 - * 各種事業の取り組みについての情報提供
 - * 各種事業の実践活動の共有
- (3) 関連機関・団体、大学・専門学校への情報提供
- (4) 烧津市ボランティア連絡協議会との連携
 - * 定期総会出席
 - * 定期V連代表者会議出席と情報提供（通信配布）
- (5) ふじのくに未来財団への情報提供
- (6) 静岡県コミュニティづくり推進協議会への情報提供
- (7) 管内福祉施設連絡会との連携と情報の共有
 - * 通信配布
- (8) 港地域づくり推進会（事務局：港公民館）への情報提供
- (9) 「さわやか福祉財団」「日本財団」「あしたの日本を創る協会」等への情報提供

2020年度 焼津福祉文化共創研究会 活動計画 活動テーマ：「港地域のご近所福祉を切り拓く —協働による地域課題解決を探る—」 2020.6.15現在